

通信

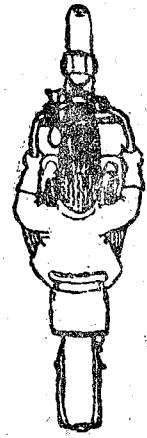
◎東京だより 田中生

肅啓、日を逐ふて暑さ加はり、陶々たる毒炎は遠慮なく、
 ラックに照りつけ砂礫も尙燒き盡さんとする勢を呈し、一陣
 の涼風來るかと思はゞ、紅塵面を撲つ有様にして閉口の外無
 之青葉したゝる夏山に岩清水を友とする田園生活こそ、當地
 人士の羨望して已まざる處に御座候。

皇太子殿下御婚儀の大饗宴は、眼も綾なす華やかな豊明殿
 に於ていと莊嚴に御舉行遊ばされ、内外の使臣を召させられ
 御披露の宴を開かせ給ふ、我皇室の彌榮へに榮へて松の緑の
 大内山には、龜も巖のうへにあそびたらむと、千秋萬歳を禁
 ずる能はず候、此の日市民も瑞祥にかゞやきて各種の祝意を
 表し奉りしは復興氣分も漲溢して何となく心嬉しく且つは心
 強く感じ申候、人口二百五十萬を有し、世界大都市の第五位

を占めたる我帝都も災後三ヶ月にして既に百五十七萬に回復
 し、現在に於ては殆ど舊に復したるは、皇室の繁榮と共に吾
 人の快哉を禁ずる能はざる處に御座候、

組閣當初より兎角の批評を受けたる清浦内閣も、御饗宴の
 大任務を果たし、遂に總辭職を爲すに至り候、組閣の成り行
 きよりして、一も攻撃二も攻撃に遂はれたるが如きも、帝國
 經濟界の改革を企て、文化の發展を圖らむとしたる其の趣旨
 は吾人の贊同する所なりしに、其の成果を收め得ずして辭し
 たるは聊か氣の毒の感有之、政友會の有志と政友本黨の有志
 相謀つて、内閣維持の運動を劃策したる趣なりしも閣僚某氏
 の如きは、世論の趨勢に鑑み、徒に政黨の走狗と爲るを潔と
 せず、決然總辭職を主張し遂に之を敢行せしめたるは、吾人
 の推賞する處に御座候、
 代るべき内閣を何人が組織すべきやは、朝野の注視を怠ら



さりし所なりしに、憲政會を骨子とする所謂護憲三派が共同して組織すること、相成候、清浦内閣の出現が所謂憲政の常道に反するものとして、之が倒壞の爲共同したる三派が又共に内閣を組織するは從來の成り行き上當然なるが如くに候得共、固より主義政見を異にする三派が其の政策を實行するが爲に、内閣を組織するは矛盾の極に有之、政友、革新の二派が十數年來政見を異にして互に對峙したるに、倒壞の目的を達したる後に於ても尙提携して國政を處理せむとするは、從來の宣言に似合はざる事にして、吾人は二派が政權に戀々たるの狀を憫み申候、在野十年専ら政見の爲に東奔西走遂に組織機運に遭遇したる憲政會をして、男らしく單獨に内閣を組織せしめざりしことは二派の將來の爲に惜むものに御座候

新内閣は組織後日尙淺くして特別議會に臨まざるべからずして、未だ其の抱負を發表するの運に至らざるは當然のことに有之、是が發表を要求するものが無理に候へ共、特別議會に於ては其の抱負の一端を窺ふことを得べく、新聞紙は早くも普通選舉やら政務次官の設置等に付彼是離立て居候、如何相成や今の處難計候へ共、吾人が常に主張するが如く、何人によつて内閣を組織するやを問はず、國民の實生活に適合したる政策を採用し實行する内閣に對しては、吾人は双手を舉げて賛成する處に有之、新内閣も吾人の此期待をして満足せしめられむことを切に希望する次第に御座候、内閣の交迭ある毎に定例に行はるべき地方長官の交迭も發表され、其の異動の範圍想像以上に廣く、誠首せらるゝもの、榮轉するもの左遷せらるゝもの相次いで出て悲喜劇を演じ申候、内務本省内に於ても相當異動あるやに噂され候得共、そのことなく終り申候、承る所に依れば地方長官中より省内各局長の適任者を物色したる由なるに、適任者を發見し得ずして遂に沙汰已みと相成候趣に有之、地方に在りては狀弊の久しきものありて、地方長官の赴任に方りては之が打破を覺悟し、世人も亦其の赴任に際し多大の期待を囑するも、赴任の曉に於ては又其の狀弊に馴馳し、遂に何等手を下すことなくして他に轉ずるは、吾人の常に遺憾とする所に有之候、併しながら其の狀弊なるものが往々にして政黨關係と結合し、之を打破したることが因と爲りて、地方長官の進退を決定する緣由と可相成、從つて地方長官が自衛上事勿れ主義を採るに至る次第に有之、私設知事の稱號を有する代議士の存するものも亦故ある次第に御候、座反之省内に在る局長は狀弊に捕はるゝことなく、理論の命ずる所に依つて行動し、常に時運の趨勢に遅れざらむことを期するが故に地方在職者とは出色の點有之適當の後任者

を得ざりしことは當然と申へく候

新内閣は其の聲明する政綱に則り、綱紀の肅正に關する訓令を發し、積年の頹風を一洗するが爲、近時弛緩せる官吏職務規律の恪守を命じ至公至正以て事に當るべく、一黨一派に偏倚して條理を枉げ裁斷を左右するが如きなきを戒め、怠惰緊張を缺くが如きを慎みて處務を敏捷ならしめ、繁縟を省き簡明以て實效を收むべし、官廳執務時間の制を厲行して執務能率の増進を期すべきことを訓へ、政務振張刷新の實を擧げ世局に一新生面を開くべきことを訓令致候、此訓令に對しては固より異論なき筈に有之、吾人も亦此くあるべきことを歡迎するものに有之候得共、官廳の訓令なるもの往々にして一片の形式に流れ、實行困難なるは常に觀る所にして、歴代の内閣に於ても屢々其の實行を企圖し、組閣當初に於ける總理大臣の訓令にして、之が趣旨の聲明を觀ざることなきに拘はらず、尙官記の弛緩せる實情に照せば此事たる言ふべくして行ひ難き事に屬し候間十分徹底したる振勸を希望するものに御座候、固より官吏が條理を枉げ、裁斷を左右するが如きは、許すべからざる事に御座候得共、一黨一派に偏することは其の文字こそ妥當ならざる丈けの事にして、官吏は内閣を組織したる政黨の政策を實行するものなるが故に政府の方針を墨

守實行すること夫れ自身が政府與黨に偏するものと相成之に偏すべからずと言ふが如きは矛盾に非ざるかと被存候。

官廳執務時間の制が改正せられ候は多數の官吏をして欣喜雀躍せしめたる處に御座候、暑中に於ける執務時間を午後三時迄と爲したるは、大正十一年の事に屬し、執務時間の多き、が能力を増進し國務の進捗を期するものと考へたるに在りしも、其の實績を觀るときは、其の期待に反するを以て今回の改正を觀るに至つたるものと被存、從つて執務時間の多きが執務能率に影響なきことを證明したるものと申すべく、此理窟を進むるときは、出勤時間の厲行は必ずしも執務能率を増進するものに非ずとの結論に達すべく、現業的の事務に従事するものに對しては格別、然ざるものに對し厲行を強要するは、吾人多年の經驗よりして不得策に非ざるかと被存候、慎重考覆して審査すべき事案に付、衆人共同の事務室に於て之を處理することの極めて困難にして、遂に相漏に陥り易きは生物たる人の當然の結果に外ならず候、故に執務時間の制度は現業的の事務に従事するものと、否らざるものとに區別制定し、後者に對しては忠實の義務を強要するを寧ろ適當に非ざるかと被考候、今回の改正も徒に從來の制度に拂はれ、政務刷新の實を擧ぐるが爲時間制度廢止の舉に出でざりしは能率

増進を高調するだけの價值無之ものと存候

農務省獨立の問題は農村救済策と相並べ論議され、各政黨必死となりて事案に一大光明を與へ、吾こそは農村を代表するもの、農民黨たらしむとするの形勢に在るは餘り農民に媚る急造政策として突止の至に不堪候、政府も亦此世論に鑑み四十五萬圓の豫算、以て農務省を新設する計畫あるやに報せられ候、今日の如く農村の疲弊を救済せずして雲遠看過するときは、由々數社會問題を惹起するに至るべきを以て、爲政者が之に關する對策を講ずるは寔に適當のことに候得共、官廳を新設することは事件を複雑ならしむるの因と爲り、假令其の新設が行政財政整理の目的に眷馳せざるにせよ、餘り好ましきことに無之。官吏を増員することは屋上更に屋を架するの嫌あるは從來の經驗が證明する處に有之候、今日の如く農村をして疲弊せしめたる根源は物貨勢銀の騰貴と、工業勞働の有利なるが爲に、青年の都會に集中するに至りたる結果に外ならず候に付、農業をして工業に對立せしめ、農村の發達を助長するが爲、道路等の如き地方交通機關を改良するの殊に急なるものあるに拘はらず、之が過根を艾除せず、一方財政の縮少を斷行して、地方開發に必要缺くべからざる道路改良費の支出を惜み、尙農村の進展を圖らむとする如きは無

理矛盾と申すべく、眞に農村の疲弊を憂ふるならば農務省新設の如き急造策を捨て地方開發に必要な費用を投じて其過根を一掃するに如かさるかと存候

二十六日より帝國議會召集され、新議員を以て構成する衆議院は、さぞ人騒せの悲喜劇を表現すること、被察候、新聞紙の報導する所に依れば、召集當日當選證書の持參を忘れたる新選良十四名の多きに達したる趣に有之、是等新選良諸子が、所謂先輩選良に引率されて、各室を覗き廻る、狀態を觀るとき、其の選出に付消費したる運動費と勞苦とに對し、聊か氣の毒の感而起さしめ申候、是等選良諸子の日比谷座に於ける活動は次號に報導することとし今回は是にて擱筆致候

敬 具

◎外遊の首途に箱根より 伊藤 生

肅啓、此度の外國出張に就ては色々御高配を相煩し奉感謝候、昨日は又懇々御見送りを蒙り恐縮の外無之候、神戸に向ふ途中足を箱根の溪谷に入れ、連日の疲勞を醫して一層の天氣を養ひ候(記者曰く夫婦連れの外遊で、故國の風物を愛惜せらるるは如何なる)出發間際まで飛び廻り居候こと、て、靜寂な山の湯に浸りて初めてホットしたる氣持に相成申候、本日は一日